

児童たちに段ボールコンポストでの取り組みを発表する学生たち＝豊明市の三崎小で



## 生ごみ堆肥化で「環境身近に」

### 豊明・三崎小で愛教大生ら授業

豊明市の三崎小学校で十三日、市環境課職員と愛知教育大（刈谷市）の学生が「先生」役を務める出前授業があった。先月から段ボールコンポストを使って生ごみの堆肥化に挑戦した四年生約七十人の代表六人が感想などを発表した。

市は、本年度までの四年間、家庭から出る燃えるごみの20%減量を目指す。その一環として二〇一九年度から毎年、市内の全小学校に市職員が出向いて減量について考えてもらう授業を実施。今年は、教育現場で

経験を積むため同大三年の十一人が初めて参加した。学生たちは先月も同小で授業を行い、手作りの教材を使って段ボールコンポストの作り方を説明した。

その後、子どもたちは約一カ月間、クラスごとに作ったコンポストに自宅の生ごみや給食の食べ残しを入れて観察。生ごみの変化していく様子などを、一人ずつ新聞にまとめた。代表の児童は「最初は生臭くて心配だったが、七日目においなくなつた」「生ごみが減らせるし、肥料も作れ

て便利」などと感想を話した。自分たちも同様の取り組みをして発表した学生たちは「絵が上手で分かりやすい」「地球温暖化やSDGsにも触れていて良かった」と一人ずつに声を掛けた。

同大の小野七月美さん（三）は「アニメを使ったり、実際に土を触ってもらったりして、環境問題を身近に感じてもらうよう工夫した。しっかり伝わって良かった」と手応えを感じた様子。同小の星河勇輝君（三）は「臭いし混ぜるのは大変だったけど、だんだん変化して面白かった」と話した。

（平木友見子）